

平成 27 年度生物多様性基礎調査の結果報告

平成 27 年度生物多様性基礎調査の内容について

平成 27 年度に実施した生物多様性基礎調査では、文献調査と自然環境調査を実施した。自然環境調査では日野市の環境を 8 つに分類した生息環境区分に基づき、それぞれの生息環境区分を代表する地点で現地調査を実施した。調査の結果から、それぞれの生息環境区分における環境の特徴、確認された生きものの種数・特徴、生物多様性の課題の整理を行った。

文献調査

日野市で確認された生きものの記録

- ・日野市の生きものの情報が含まれる文献について調査した
- ・植物、鳥類、哺乳類、両生類、爬虫類、昆虫類、クモ類、魚類、底生動物の 9 分類群を対象とした
- ・確認地点が不明である生きものの情報が含まれる
- ・現在は確認できないと推測される生きものの情報も含まれる

自然環境調査

日野市を代表する環境と生きものの特徴

- ・過去に実施された調査によって日野市の環境は 8 つの生息環境区分に分類されている
- ・生息環境区分に該当する調査地点で植物、鳥類、哺乳類、両生類、爬虫類、昆虫類、クモ類の 7 分類群を対象に調査を実施した
- ・環境ごとの課題を、その場所に生息・生育する生きものや環境の状況から検討した

<報告内容>

生息環境区分に基づく生きものの特徴

- ・環境ごとの生きものの現状を示している
- ・環境に基づいて生きものの課題を検討した

※自然環境調査は平成 28 年初夏まで実施する予定であるため、全ての調査結果の報告は第 4 回日野市生物多様性地域戦略策定検討委員会を予定している

生息環境区分の概要と調査地点について

過去に日野市で実施された調査がまとめられている「都市のエコロジカルネットワークⅡ」に記載されている生息環境区分の特徴と、自然環境調査の調査地点は以下のとおり関連付いている。

生息環境区分	面積 (ha)	特色	調査地点	備考
1:斜面の常緑樹林	24.17	・丘陵地に分布している。それほど面積は広くない。 ・主な植生は、自然林(シラカシ林)やアカマツ林、スギ林等で希少な樹林である。	百草八幡神社の社叢林	
2:斜面・段丘の落葉樹林	201.94	・丘陵部の斜面、台地の段丘崖に残っている。特に大規模な樹林は丘陵部にあり、段丘崖の樹林は、線状である。	(斜面:黒川清流公園)	東京都が実施した東豊田緑地保全地域の調査結果を利用した
			丘陵:都立七生公園付近	
3:低水敷の落葉樹林	8.89	・河川敷に点在する樹林で、ニセアカシア林を主体としているが、ヤナギの低木林も含まれる。 ・面積的には、小さいが河川敷にあり、生物に重要な生息環境を提供している。	多摩川河川敷の樹林	
4:果樹園・緑の多い住宅地	294.5	・農家の屋敷林や旧市街地の住宅地は良好な生物環境を提供している。丘陵地の住宅地は残存緑地のため、良好な生物の環境となっている。	多摩平の森の団地植栽	
5:緑の少ない住宅地	1327.36	・丘陵地、台地、沖積低地でそれぞれ性格の異なる住宅地がみられる。	-	質的变化が少ないと考えられるため設定せず
6:畑・草地	265.97	・台地部並びに低地部におよそ 100ha 弱の畑が残っている。これらの環境は、草地性の環境に生息する生物の生息環境となっており、多様な草地環境に動物群が生息している。	東光寺上地区の畑	
7:水田・低水敷草地	219.97	・水田は、崖線の湧水や水路とともに低地の環境の骨格を形成している。 ・これらは連結することにより、まとまった生態系を形成しているが、近年、湧き水、水田、水路による一体的であった湿地の環境は、区画整理事業によって急激に減少し、分断され、孤立している。	低水敷:多摩川河川敷の高茎草地	
			水田:新井の田んぼ	
8:開放水面	63.11	・多摩川、秋川の水面である。これらは、水鳥を中心に他の動物にも多くの恩恵をもたらしている。	(多摩川の水面)	多摩川河川敷での調査と併せて実施

※生息環境区分の名称、面積、特色は「都市のエコロジカルネットワークⅡ」から引用

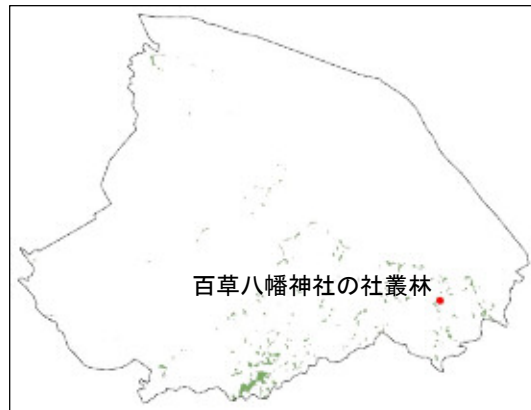
生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 1 斜面・常緑樹林

環境の特徴

丘陵地に位置するスダジイ、シラカシ、アラカシ等が生育する常緑広葉樹林（鎮守の森）






調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種（平成 28 年調査結果を除く）

	百草八幡神社
植物	68 科 130 種
鳥類	8 科 10 種
哺乳類	2 科 2 種
両生類	0 種
爬虫類	0 種
昆虫類	59 科 91 種
クモ類	12 科 20 種

動植物の特徴（平成 28 年調査結果を除く）

植物	スダジイの巨木群が特徴的に見られ、林内には、サネカズラ、ヒサカキ、アオキ、ヤブコウジといった耐陰性のある植物が生育していた。			
鳥類	樹林地に生息する留鳥のシジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、ヒヨドリ、キジバト、アオゲラのほか、冬鳥のシロハラ、特定外来生物のガビチョウが確認された。			
哺乳類	様々な環境を利用するタヌキが確認されたほか、境内周辺の一部でモグラ塚が確認された。			
両生類 爬虫類	生息は確認されていない。	アズマモグラ (モグラ塚)	タヌキ	
昆虫類 クモ類	朽木を利用する種、シイ・カシ類を食べる種、林床の茂みに生息する種に加え、明るい草地に生息する種が確認された。			
		オオゴキブリ	クマスズムシ	オオイシアブ

課題

希少な樹林の保全

スダジイの巨木を中心とする発達した樹林環境は日野市内にごくわずかに残るのみで、周辺には住宅地がせまり、樹林環境が断片化・孤立化している。発達した樹林環境は日野市に残る貴重な環境であるため、適切に保全する必要がある。

民有緑地の積極的な活用

「百草のシイノキ群」など、自然に近いみどりを保全するためには、民有緑地の公有地化や管理協定、トラストの積極的な活用など行政と市民相互の連携・協力が求められる。

生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 2 斜面・丘陵の落葉樹林

環境の特徴

丘陵地や崖線斜面に位置するクヌギ、コナラを中心とする落葉広葉樹（雑木林）

調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種（平成 28 年調査結果を除く）

	都立七生公園付近	※黒川清流公園
植物	79 科 181 種	107 科 405 種
鳥類	13 科 18 種	18 科 26 種
哺乳類	0 種	3 科 3 種
両生類	0 種	0 種
爬虫類	1 科 1 種	4 科 5 種
昆虫類	80 科 148 種	101 科 286 種
クモ類	12 科 29 種	-

※黒川清流公園は東京都の調査結果を利用している

動植物の特徴（平成 28 年調査結果を除く。ただし、哺乳類・両生類・爬虫類は平成 28 年調査を含む）

植物	林床にササが多いが、黒川清流公園ではササ刈りされた所にキンランなど様々な樹林性草本類が確認された。			
		コナラ等の雑木林	ササ刈りされた林床	キンラン
鳥類	樹林地に生息する留鳥のシジュウカラ、コゲラ、イカルや夏鳥のカッコウ、冬鳥のアカハラ、ツグミ、笹藪を好むウグイス、特定外来生物のガビチョウが確認された。			
		カッコウ	イカル (確認環境)	ウグイス (確認環境)
哺乳類	黒川清流公園では、園路沿いでアズマモグラが確認された。七生公園では、今回調査した箇所の中で唯一、ノウサギの痕跡(糞)が確認された。			
両生類 爬虫類	湿った樹林や水辺を利用するヒバカリやアオダイショウが確認されている。斜面下部には湧水由来の水辺があるものの、両生類は確認されなかった。			
		ノウサギ(糞)	ヒバカリ	アオダイショウ
昆虫類 クモ類	雑木林のクヌギやコナラをはじめとした落葉広葉樹につく種、林床のササ類を食草とする種が確認された。			
		コクワガタ	トゲアリ	コチャバネセセリ

課題

二次的自然環境の減少・劣化 丘陵地の生きものの多様性を保つには、継続的に人の手を入れることで雑木林や草地など二次的な植生を維持することが必要である。	宅地化や相続によるみどりの減少 丘陵や崖線の樹林は日野市に残された重要なみどりである。この環境を次世代に残すためには、宅地化や相続によるみどりの減少を防ぐ必要がある。
--	---

生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 3 低水敷の落葉樹林

環境の特徴

多摩川河川敷に成立したハリエンジュ、オニグルミ、ヤナギ類からなる落葉広葉樹林

調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種(平成 28 年調査結果を除く)

	多摩川河川敷の樹林
植物	48 科 102 種
鳥類	21 科 31 種
哺乳類	0 種
両生類	0 種
爬虫類	0 種
昆虫類	98 科 194 種
クモ類	12 科 28 種

動植物の特徴(平成 28 年調査結果を除く。ただし、哺乳類・両生類・爬虫類は平成 28 年調査を含む)

植物	外来種のハリエンジュやオニグルミ、ヤナギ類といった高木が樹林を形成していた。林内にはアケビ、アオツツラフジ、ツルマメといったつる植物が多くみられた。川側の林縁部では外来種のシナダレスズメガヤの生育も見られた。			
鳥類	樹林地に生息する留鳥のアカゲラ、ヒヨドリ、エナガ、草地に生息する留鳥のモズ、ホオジロ、水辺に生息するアオサギ、カワウ、カワセミ、セキレイ類、特定外来生物のガビチョウが確認された。			
哺乳類	オニグルミの生える周辺においてアカネズミの利用が確認された。			
両生類 爬虫類	多摩川沿いにあるワンドにおいて、特定外来生物であるウシガエルが確認された。			
昆虫類 クモ類	羽化間もない時期に樹林で生活するトンボ類、マメ科やバラ科を食草とする種、明るく広い草地に生息する種が確認された。			

課題

河川敷の樹林化 河川敷に点在する樹木に外来種のハリエンジュがある。ハリエンジュは拡散することで、在来の植物に悪影響を及ぼす恐れがある。生態系を保全するためには防除を行う必要がある。	礫河原の劣化 樹林や乾性草地の拡大によって、礫河原とそこに特徴的に生育・生息する生きものが減少していくおそれがある。特に、シナダレスズメガヤの生育量が増えると、冠水時に砂が堆積し、礫河原が砂の多い河原へ改変される可能性がある。
--	---

生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 4 果樹園・緑の多い住宅地

環境の特徴

台地上の住宅地周辺の植栽樹林群や芝生草地

調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種(平成 28 年調査結果を除く)

	多摩平の森の団地植栽
植物	65 科 171 種
鳥類	10 科 11 種
哺乳類	0 種
両生類	0 種
爬虫類	1 科 1 種
昆虫類	56 科 115 種
クモ類	5 科 5 種

動植物の特徴(平成 28 年調査結果を除く)

植物	団地外構には、下草が低く刈り込まれた植栽地や芝生草地が広がり、草丈の高い草本類は少ない一方、園芸植物や低茎の外来植物が多く生育していた。			
		ケヤキ	ウマノスズクサ	ムラサキツメクサ
鳥類	人家周辺に生息する留鳥のスズメ、ハクセキレイ、樹林地にも生息する留鳥のヒヨドリ、コゲラ、冬鳥のジョウビタキなどが確認された。			
		スズメ	ヒヨドリ	ジョウビタキ
哺乳類	生息は確認されていない。			
両生類 爬虫類	低茎草地の環境においてカナヘビが確認された。局所的な草地がこれらの動物の廊下として利用されていた。一部刈り残す場所を設けるなど生息の場を増やす工夫が望まれる。			
昆虫類 クモ類	人家周辺や明るい草地に生息する種や植栽樹木を利用する種が確認された。			
		ヒラタグモ	アオドウガネ	オオスカシバ

課題

単調な緑地管理の改善 芝生をはじめとする草地は一様に低く刈り取られることで、植栽環境が単純になっており、生育・生息する生きものが少ない。生きものへ配慮する観点からは、画一的な管理ではなく、そこに生息する生きものの生態に合わせた緑地管理が必要である。	民有地の緑の保全 巨樹・巨木、屋敷林、櫛ぐね、社寺林等は民有地における歴史的価値のあるみどりであり、市民とともに保全や活用の方策について検討することが望まれる。
--	--

生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 6 畑・草地

環境の特徴

台地上の耕作地周辺の草地環境

調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種(平成 28 年調査結果を除く)

	東光寺上地区の畑
植物	31 科 79 種
鳥類	12 科 12 種
哺乳類	1 科 1 種
両生類	0 種
爬虫類	0 種
昆虫類	71 科 115 種
クモ類	3 科 3 種

動植物の特徴(平成 28 年調査結果を除く)

植物	ススキ等の高茎草本や、スベリヒユ、シロザ、ナズナ、トキンソウ、ハハコグサといった畑地によくみられる植物が生育していた。			
鳥類	人家周辺に生息する留鳥のスズメ、ムクドリ、ハクセキレイ、耕作地等草地に生息する夏鳥のヒバリ、冬鳥のツグミなどが確認された。			
哺乳類	畑上にキツネの足跡が確認された。周辺の樹林や草地とつながる畑を狩場や移動経路として利用していると考えられる。			
両生類 爬虫類	生息は確認されていない。			
昆虫類 クモ類	作物を食草とする種や明るい裸地を利用する種が確認された。			

課題

農地の減少・断片化

農業は産業の場であるだけでなく、古くから親しまれてきた日野市の風景を形成し、動植物の生息・生育空間でもある。生産の場としてだけでなく、多面的な活用によって、農地減少をくい止めることが望まれる。

農業者の高齢化や後継者不足

相続の発生や農業従事者の高齢化を背景に農地は減少が続いている。農地保全の取組み、農業に従事する人材の育成により、農と共存するまちの形成が望まれる。

生息環境区分に基づく生きものの特徴

生息環境区分 7 水田・低水敷

環境の特徴

低地の水田および多摩川河川敷の湿性植物、乾性植物からなる草地環境

調査地点と生息環境区分の分布図



確認された動植物種 (平成 28 年調査結果を除く)

	多摩川河川敷の高茎草地	新井の田んぼ
植物	58 科 201 種	34 科 85 種
鳥類	29 科 47 種	8 科 8 種
哺乳類	3 科 3 種	1 科 1 種
両生類	0 種	1 科 1 種
爬虫類	0 種	0 種
昆虫類	90 科 217 種	57 科 98 種
クモ類	4 科 6 種	4 科 6 種

動植物の特徴 (平成 28 年調査結果を除く)

植物	水田周辺は、アゼナ、コナギなどの湿性植物が特徴的に見られた。多摩川河川敷では、アレチウリ、オオカワデシャ、シナダレスズメガヤなど、生態系に悪影響を及ぼす外来植物が多く確認された。			
鳥類	人家周辺に生息するスズメ、夏鳥のツバメ、草地に生息するホオジロ、モズ、水辺に生息するサギ類、カモ類、セキレイ類、特定外来生物のガビチョウが確認された。			
哺乳類	樹林から水辺まで様々な環境を利用する、タヌキやハクビシンが確認された。用水路や河川沿いの草地などを移動経路・採餌の場として利用していると考えられる。			
両生類 爬虫類	新井の田んぼでは水田などに特徴的に生息するトウキョウダルマガエルが確認された。			
昆虫類 クモ類	ナガコガネグモなど湿性草地に生息する種や、ショウリョウバッタモドキなどまとまったイネ科高茎草地を生息地とする種が確認された。			

課題

外来植物の繁茂

多摩川河川敷では多くの外来植物の繁茂が確認された。特定外来種をはじめ、シナダレスズメガヤの繁茂など河川生態系に悪影響を及ぼすことが懸念される事象があり、早急な対策が求められている。

水田の減少

昭和 60 年に 108ha あった水田は、現在では 20ha 未満となっている。水田の減少によって、水田を生息環境とする種の減少が懸念される。防災、環境、食育など、農地の多面的機能の再認識と合わせて減少を防ぐ必要があります。